

みずほマーケット・トピック(2016 年 4 月 8 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3.本日のトピック」はお休みとさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は下落する展開。週初 4 日、111 円台後半でオープンしたドル/円は、一時週高値となる 111.80 円をつけるも、材料難となる中、111 円台前半で方向感に欠ける値動きに。5 日は日経平均株価の下落に連れてドル/円も 110 円台後半まで下落した。その後、安倍首相が米紙のインタビューで、「通貨安競争は回避すべき」と発言したことが伝わると円買いが急速に進み、ドル/円は 109 円台後半まで値を下げた。しかし米 3 月 ISM 非製造業景気指数が良好な結果となり、ショートカバーが一気に持ち込まれると、ドル/円は 110 円台前半を回復した。6 日のドル/円は、NY 時間にドルが売り戻される展開に 110 円ちょうどを下抜けすると、ストップロスを巻き込み 109 円台後半まで下落。その後 FOMC 議事要旨の発表を受けて円買いが強まると、ドル/円は 109 円台前半まで下落するも、買い戻しの動きが入り 109 円台後半まで値を戻した。7 日にかけてもドル売り地合いは根強く、ドル/円は 2014 年 10 月 31 日の日銀追加緩和直前の水準である 109.17 円を割り、ストップを巻き込んで 108 円台後半まで下落。その後も米金利が一段と低下する動きに一時 108 円を割り込み 107.67 円をつけた。本日にかけてはドル/円は、108 円台後半まで値を戻して推移している。
- ・今週のユーロ相場は揉み合う展開。週初 4 日、1.13 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、欧州時間に入り 1.14 台前半まで上昇したものの、その後は円買い優勢地合いの展開にユーロ/円が下落すると 1.13 台後半まで連れ安となった。5 日は、オプション絡みの売りが出るとの情報にユーロ/円が売り優勢となる中、米 3 月 ISM 非製造業景気指数の良好な結果を好感したドル買いも相俟って、ユーロ/ドルは 1.13 台前半まで下落。しかし、ドル売り意欲は強く、その後は 1.13 台後半まで回復した。6 日には、米製薬会社による欧州同業大手の買収断念との報道を受けてユーロ買い期待が剥落したほか、ギリシャ債務問題も意識されたドル買い優勢地合いにユーロ/ドルは一時週安値となる 1.1327 までじり安推移。その後、FOMC 議事要旨を受けてドルが売られる展開となり 1.14 台前半まで上昇した。7 日は、ユーロ/ボンドの上昇に連れて、ユーロ/ドルは一時年初来高値となる 1.1454 まで上昇したが、複数の ECB 高官から追加緩和に積極的なコメントが伝わるとユーロ売りが優勢となり 1.13 台前半まで反落した。その後は 1.13 台後半まで値を戻し、本日にかけては同水準にて底堅い推移が継続している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		4/1(Fri)	4/4(Mon)	4/5(Tue)	4/6(Wed)	4/7(Thu)	
ドル/円	東京9:00	112.53	111.69	111.23	110.38	109.73	
	High	112.58	111.80	111.34	110.64	109.90	
	Low	111.58	111.10	109.92	109.34	107.67	
	NY 17:00	111.72	111.37	110.35	109.79	108.19	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1378	1.1395	1.1387	1.1381	1.1399	
	High	1.1438	1.1412	1.1406	1.1432	1.1454	
	Low	1.1335	1.1357	1.1336	1.1327	1.1338	
	NY 17:00	1.1384	1.1390	1.1386	1.1399	1.1376	
ユーロ/円	東京9:00	128.03	127.28	126.68	125.61	125.11	
	High	128.15	127.33	126.75	125.84	125.27	
	Low	127.10	126.46	125.24	124.88	122.55	
	NY 17:00	127.17	126.80	125.62	125.16	123.14	
日経平均株価		16,164.16	16,123.27	15,732.82	15,715.36	15,749.84	
TOPIX		1,301.40	1,302.71	1,268.37	1,267.75	1,272.64	
NYダウ工業株30種平均		17,792.75	17,737.00	17,603.32	17,716.05	17,541.96	
NASDAQ		4,914.54	4,891.80	4,843.93	4,920.72	4,848.37	
日本10年債		-0.06%	-0.08%	-0.05%	-0.06%	-0.05%	
米国10年債		1.77%	1.76%	1.72%	1.75%	1.69%	
原油価格(WTI)		36.79	35.70	35.89	37.75	37.26	
金(NY)		1,223.50	1,219.30	1,229.60	1,223.80	1,237.50	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・ 米国では、13 日(水)に 3 月小売売上高が発表される。2 月は自動車販売台数の伸び悩みやガソリン価格の低下を受けたガソリンスタンド売上の落ち込みを背景に前月比▲0.1%となり、更に 1 月分が下方修正されるなど弱い内容となった。3 月については、原油価格の持ち直しを背景にガソリンスタンド売上の上昇が見込まれるほか、株価の急回復に伴う資産効果も期待されるため、前月比ではプラスの伸びになると予想する(市場予想:同+0.2%)。また、14 日(木)に 3 月消費者物価指数(CPI)が発表される。市場では前年比+1.1%と前月(同+1.0%)から僅かながら加速すると見込む向きが多い。なお、コア CPI(除く、食品・エネルギー)は前年比+2.2%と前月(同+2.3%)から減速するも、2012 年来の高水準が続くと市場では予想されている。CPI などインフレ関連指標は 2015 年後半から上昇基調が続いており、タカ派の FRB 高官が早期利上げを示唆する根拠の一つとなっている。今回発表の CPI が市場予想以上に加速する場合は、利上げ期待が高まる可能性があるため、注視が必要となる。そのほか、13 日(水)に次回 FOMC(4 月 26~27 日)の討議資料となる地区連銀経済報告(ページブック)、15 日(金)に 3 月鉱工業生産の発表が予定されている。FRB 高官発言としては、12 日(火)にウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁、14 日(木)にロックハート・アトランタ連銀総裁、パウエル理事、15 日(金)にエバンズ・シカゴ連銀総裁の講演が予定されている。また、ワシントンにおいて 15 日(金)から IMF・世界銀行の春季総会が開催される。
- ・ 本邦では、11 日(月)に 2 月機械受注の発表が予定されている。設備投資の先行指標として注目される同指数であるが、1~3 月期の内閣府見通しは前期比+6.4%(船舶・電力を除く民需)と堅調な伸びを見込んでいるため、1 月(前月比+15.0%)より伸び幅が縮小することはあっても、引き続きプラスの伸びを維持するだろう。また、12 日(火)には 3 月工作機械受注も発表される予定であり、大幅なマイナス(2 月:前年比▲22.5%)から持ち直せるかどうかにも注目が集まる。このほか、13 日(水)に 3 月国内企業物価指数、15 日(金)に 2 月鉱工業生産(確報値)の発表が予定されている。
- ・ 欧州では、14 日(木)に英中銀(BOE)の金融政策決定会合が予定されている。2 月の消費者物価指数(CPI)が前年比+0.3%に止まるなど、インフレ率の加速ペースは鈍く、本会合では現状の金融政策維持を予想する。このほか、13 日(水)にユーロ圏 3 月鉱工業生産、14 日(木)にユーロ圏 3 月総合消費者物価指数(HICP、確報値)が発表される予定である。

	本 邦	海 外
4 月 8 日(金)	—————	・米 2 月卸売売上高 ・独 2 月貿易収支
11 日(月)	・2 月機械受注	・米 2 月製造業新規受注
12 日(火)	・3 月貸出・預金動向	・米 3 月財政収支
13 日(水)	・3 月企業物価 ・3 月マネーストック	・米 3 月小売売上高 ・米 3 月消費者物価 ・米 2 月企業在庫 ・米 ページブック ・ユーロ圏 2 月鉱工業生産
14 日(木)	—————	・米 3 月消費者物価 ・ユーロ圏 3 月消費者物価(確報) ・G20 財務相・中央銀行総裁会議(~15 日、ワシントン)
15 日(金)	・2 月鉱工業生産(確報)	・米 4 月ニューヨーク連銀製造業景気指数 ・米 3 月鉱工業生産 ・米 4 月ミシガン大学消費者マインド(速報) ・米 2 月 TIC レポート(対内対外証券投資) ・ユーロ圏 2 月貿易収支 ・IMF・世界銀行春季総会(~17 日、ワシントン)

【当面の主要行事日程(2016 年 4 月~)】

ECB 理事会(4 月 21 日、6 月 2 日、7 月 21 日)
 ユーロ圏財務相会合、EU 経済財務相理事会(ECOFIN)(4 月 22 日~23 日、6 月 16~17 日)
 米 FOMC(4 月 26~27 日、6 月 14~15 日、7 月 26~27 日)
 日銀金融政策決定会合(4 月 27~28 日、6 月 15~16 日、7 月 28~29 日)
 G7 首脳会合(伊勢志摩、4 月 26~27 日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2016年4月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 日銀短観(3月調査) 日本 自動車販売台数(3月) 米国 雇用統計(3月) 米国 ISM製造業景気指数(3月) 米国 建設支出(2月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、3月) ユーロ圏 失業率(2月)	
4 日本 マネタリーベース(3月) 米国 製造業新規受注(2月)	5 米国 貿易収支(2月) 米国 ISM非製造業景気指数(3月) ドイツ 製造業受注(2月)	6 日本 景気動向指数(速報、2月) 米国 FOMC議事要旨(3月15～16日開催分) ドイツ 鉱工業生産(2月)	7 米国 消費者信用残高(2月)	8 日本 国際収支(2月) 日本 景気ウォッチャー調査(3月) 日本 企業倒産件数(3月) 米国 卸売売上高(2月) ドイツ 貿易収支(2月)	
11 日本 機械受注(2月)	12 日本 貸出・預金動向(3月) 米国 財政収支(3月)	13 日本 企業物価(3月) 日本 マネーストック(3月) 米国 小売売上高(3月) 米国 生産者物価(3月) 米国 企業在庫(2月) 米国 ページアップ ユーロ圏 鉱工業生産(2月)	14 米国 消費者物価(3月) ユーロ圏 消費者物価(確報、3月) G20財務大臣・中央銀行総裁会議(ワシントン、～15日)	15 日本 鉱工業生産(確報、2月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(4月) 米国 鉱工業生産(3月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、4月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、2月) 米国 IMF・世界銀行春季総会(ワシントン、～17日) ユーロ圏 貿易収支(2月)	
18	19 米国 住宅着工(3月) ユーロ圏 国際収支(2月) ドイツ ZEW景況指数(4月)	20 日本 貿易収支(3月) 米国 中古住宅販売件数(3月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(4月) 米国 景気先行指数(3月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	22 日本 第三次産業活動指数(2月) ユーロ圏 財務相会合(アムステルダム)	23 ユーロ圏 EU経済・財務相理事会 (ECOFIN、アムステルダム)
25 日本 企業向けサービス価格(3月) 日本 景気動向指数(確報、2月) 米国 新築住宅販売(3月) ドイツ IFO企業景況感指数(4月)	26 米国 FOMC(～27日) 米国 耐久財受注(3月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(2月) 米国 消費者信頼感指数(4月)	27 日本 日銀金融政策決定会合(～28日)	28 日本 金融政策決定会合・展望(基本的見解) 日本 東京都都区消費者物価(4月) 日本 全国消費者物価(3月) 日本 労働力調査(3月) 日本 家計調査(3月) 日本 商業販売統計(3月) 日本 新設住宅着工(3月) 日本 鉱工業生産(速報、3月) 米国 GDP(1次速報、1～3月期)	29 日本 昭和の日 米国 雇用コスト(1～3月期) 米国 個人所得・消費(3月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(4月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、4月) 米国 PCEコアデフレーター(3月) ユーロ圏 失業率(3月) ユーロ圏 消費者物価(速報、4月) ユーロ圏 GDP(確報値、1～3月期)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2016年5月)

月	火	水	木	金	週末
2 日本 自動車販売台数(4月) 米国 ISM製造業景気指数(4月) 米国 建設支出(3月)	3 日本 憲法記念日	4 日本 みどりの日 米国 ADP雇用統計(4月) 米国 貿易収支(3月) 米国 労働生産性(1～3月期、速報) 米国 ISM非製造業景気指数(4月) 米国 製造業新規受注(3月)	5 日本 こどもの日	6 日本 マネタリーベース(4月) 米国 雇用統計(4月) 米国 消費者信用残高(3月)	
9 日本 *企業倒産件数(4月) 日本 金融政策決定会合議事要旨 (3月14～15日開催分) ドイツ 製造業受注(3月)	10 米国 卸売売上高(3月) ドイツ 鉱工業生産(3月) ドイツ 貿易収支(3月)	11 日本 景気動向指数(速報、3月) 米国 財政収支(4月)	12 日本 金融政策決定会合による主な意見 (4月27～28日開催分) 日本 国際収支(3月) 日本 貸出・預金動向(4月) 日本 景気ウォッチャー調査(4月) ユーロ圏 鉱工業生産(3月)	13 日本 マネーストック(4月) 日本 第三次産業活動指数(3月) 米国 小売売上高(4月) 米国 生産者物価(4月) 米国 企業在庫(3月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、5月) ユーロ圏 GDP(速報値、1～3月期) ドイツ GDP(速報値、1～3月期)	
16 日本 企業物価(4月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(5月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、3月)	17 日本 鉱工業生産(確報、3月) 米国 住宅着工(4月) 米国 消費者物価(4月) 米国 鉱工業生産(4月) ユーロ圏 貿易収支(3月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル)	18 日本 GDP(速報、1～3月期) 米国 FOMC議事要旨(4月26～27日開催分) ユーロ圏 消費者物価(確報、4月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ブリュッセル)	19 日本 機械受注(3月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(5月) 米国 景気先行指数(4月) ユーロ圏 国際収支(3月)	20 日本 景気動向指数(確報、3月) 米国 中古住宅販売(4月) G7財務大臣・中央銀行総裁会議(仙台、～21日)	
23 日本 貿易収支(4月) 日本 景気動向指数(確報、3月)	24 米国 新築住宅販売(4月) ドイツ ZEW景況指数(5月) ドイツ GDP(確報値、1～3月期)	25 ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(アムステルダム) ドイツ IFO企業景況感指数(5月)	26 日本 企業向けサービス価格(4月) 米国 耐久財受注(4月) G7首脳会合(伊勢志摩、～27日)	27 日本 東京都都区消費者物価(5月) 日本 全国消費者物価(4月) 米国 GDP(2次速報、1～3月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、5月)	
30 日本 商業販売統計(4月)	31 日本 家計調査(4月) 日本 鉱工業生産(速報、4月) 日本 新設住宅着工(4月) 日本 労働力調査(2月) 米国 個人所得・消費(4月) 米国 PCEコアデフレーター(4月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(5月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(5月) 米国 消費者信頼感指数(5月) ユーロ圏 失業率(4月) ユーロ圏 消費者物価(速報、5月)				

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2016年4月7日	FOMC議事要旨(3月15～16日開催分)
2016年4月6日	ドル/円相場、110円割れの読み方
2016年4月5日	深まるユーロ圏のデフインフレとユーロ高懸念
2016年4月4日	QQE3周年と海外の反応～米国講演を踏まえて～
2016年4月1日	週末版
2016年3月28日	日銀、「5分で読めるマイナス金利」に思うこと
2016年3月25日	週末版
2016年3月24日	ユーロ相場、再考～実質金利、PPP、実質実効為替相場～
2016年3月23日	ブリュッセルテロを受けて～目立つ英ボンドの動揺～
2016年3月22日	ユーロ圏経常黒字とユーロ相場の近況について
2016年3月18日	週末版(過去2か月のG3通貨相場から言えること～基軸通貨には逆らえず～)
2016年3月17日	FOMCを終えて～やはり「2回出来れば御の字」の米利上げ～
2016年3月16日	日銀金融政策決定会合について～際立つECBとの対比～
2016年3月15日	TLTRO2Iに関するQ&A～悔れない、その実力～
2016年3月14日	求められる、市場期待に対して「No」と言う勇氣
2016年3月11日	週末版(ECB理事会を終えて～悔やまれる満点回答～)
2016年3月10日	日銀会合プレビュー～「Mr.Kurodaは気にしない」のか？～
2016年3月4日	週末版
2016年3月3日	今年が「円高の年」なら、まだ底は深い～過去30年の経験則～
2016年3月2日	ECB理事会プレビュー～注目すべき論点の整理～
2016年3月1日	上海G20、為替見通しへのインパクトについて
2016年2月26日	週末版(筋が通らない日中に対する通貨安批判～まずはFRBの政策修正が筋～)
2016年2月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年1月分)
2016年2月24日	英国のEU離脱に係る論点整理
2016年2月22日	中国版プラザ合意へ燃る期待について
2016年2月19日	週末版(ECB理事会議事要旨(1月21日開催分)を受けて～「保険」≒「混乱の種」という皮肉～)
2016年2月16日	マイナス金利で円高は「不幸中の幸い」？
2016年2月12日	週末版(やはり始まった購買力平価への回帰～最終的に報われる為替予測とは～)
2016年2月10日	弱まる「期待への働きかけ」と為替相場の関係
2016年2月9日	円の需給環境の総括と展望～15年国際収支を受けて～
2016年2月8日	米1月雇用統計を受けて～成熟化への不安～
2016年2月5日	週末版(マイナス金利決定から1週間を終えて～早くも心配される「本当のマイナス金利」～)
2016年2月4日	「終わりの始まり」が近づくFRBの正常化プロセス
2016年2月3日	円安ドライバーとしては役不足な日銀マイナス金利
2016年2月2日	日銀の追加緩和が可能だった理由
2016年2月1日	日銀マイナス金利政策導入を受けて～逐次投入体制へ～
2016年1月29日	週末版
2016年1月28日	FOMC(1月26～27日開催分)を受けて
2016年1月27日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年12月分)
2016年1月26日	ドラギ総裁講演について～崩れるインフレ期待の「壁」～
2016年1月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～静観する勇氣～
2016年1月22日	週末版(ECB理事会を終えて～2連敗は避けられるか？～)
2016年1月21日	円相場の調整余地を探る～試される日銀～
2016年1月20日	ユーロ相場を巡る最近の証券投資フローについて
2016年1月19日	ECB理事会プレビュー～ECB版の補完措置へ向けて～
2016年1月18日	「あく抜け」に求められるもの～人民元の完全フロート化～
2016年1月15日	週末版(ECB理事会議事要旨について～ドラギマジック、「初の黒星」の舞台裏～)
2016年1月14日	厳しくなってきたFRBの「瘦せ我慢」
2016年1月13日	本邦11月国際収支統計と円相場の需給について
2016年1月12日	Game changerになれなかった米12月雇用統計
2016年1月8日	週末版(中国外貨準備減少の正しい読み方～トリレンマの「総取り」はいつまでも出来ない～)
2016年1月7日	FOMC議事要旨～「ハト派なタカ派」を再確認～
2016年1月5日	119円台前半の意味～想定為替レートとの対比～
2016年1月4日	2016年の為替見通しポイント～過去2年との違い～
2015年12月28日	2015年の為替相場総括～為替従属強まる日米欧中銀～
2015年12月25日	週末版(【暫定版】中期為替相場見通し～ユーロ相場～)
2015年12月24日	【暫定版】中期為替相場見通し～ドル/円相場～
2015年12月22日	完全雇用の背後にあるもの～景気と雇用のズレ～
2015年12月21日	日銀金融政策決定会合～QQE2.5の読み方～
2015年12月18日	週末版
2015年12月17日	FOMCを終えて～ドル/円見通しに影響なし～
2015年12月16日	日米金利差から見る現状のドル/円相場
2015年12月14日	日銀短観12月調査～後がない想定為替レート～
2015年12月11日	週末版(ECBのバランスシート拡大について～「2016年6月」に向けての進捗状況～原油価格下落のG3通貨への含意)
2015年12月9日	原油価格下落のG3通貨への含意
2015年12月8日	本邦10月国際収支統計と円相場の需給について
2015年12月7日	ECBはどうしたら踏み込むのか？今後のユーロ相場は？
2015年12月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「故意的な失望」は転ばぬ先の杖か～)
2015年12月3日	イエレン講演や限界に迫るドル買い相場
2015年12月2日	実質実効為替相場(REER)で見る、ドル相場・円相場
2015年12月1日	ECB理事会プレビューの補足～超日銀化現象～
2015年11月27日	週末版
2015年11月26日	追加緩和後のユーロ相場～また、「下落の時代」？～
2015年11月25日	ECB理事会プレビュー(12月3日開催分)～3つの緩和メニュー～
2015年11月24日	ECB理事会議事要旨～「未知の領域」への不安も～
2015年11月20日	週末版
2015年11月17日	本邦7～9月期GDPを受けて～最近のULC動向～
2015年11月16日	仏同時多発テロを受けて～政治統合か、瓦解か～
2015年11月13日	週末版(ドル調達コストの急騰について～「割に合わない」ムードが強まる対外証券投資～)
2015年11月12日	12月ECB緩和を阻むもの～戻ってしまったインフレ期待～
2015年11月11日	米輸入物価下落が示す「不況の輸入」
2015年11月10日	本邦9月国際収支統計と円相場の需給について
2015年11月9日	米10月雇用統計を受けて～問題は「何回できるか」～
2015年11月6日	週末版(ECBの「次の一手」を考える～預金ファシリティ金利のマイナス幅はどこまでいくのか～)
2015年11月4日	3度目の正直に挑む、ドル/円相場の年間値幅
2015年11月2日	日銀金融政策決定会合を終えて～幻滅リスク回避も・・・～
2015年10月30日	週末版
2015年10月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年9月分)
2015年10月28日	FOMC声明文のプレビュー～注目すべき3点～
2015年10月27日	振り出しに戻った投機筋の円売り～2つの理由～
2015年10月26日	ECB緩和予告は日銀を追い詰めたと言えるのか？
2015年10月23日	週末版(ECB理事会を終えて～止まりそうにない金融政策の通貨政策化～)